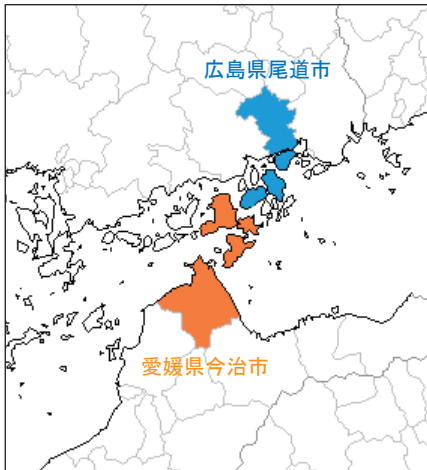
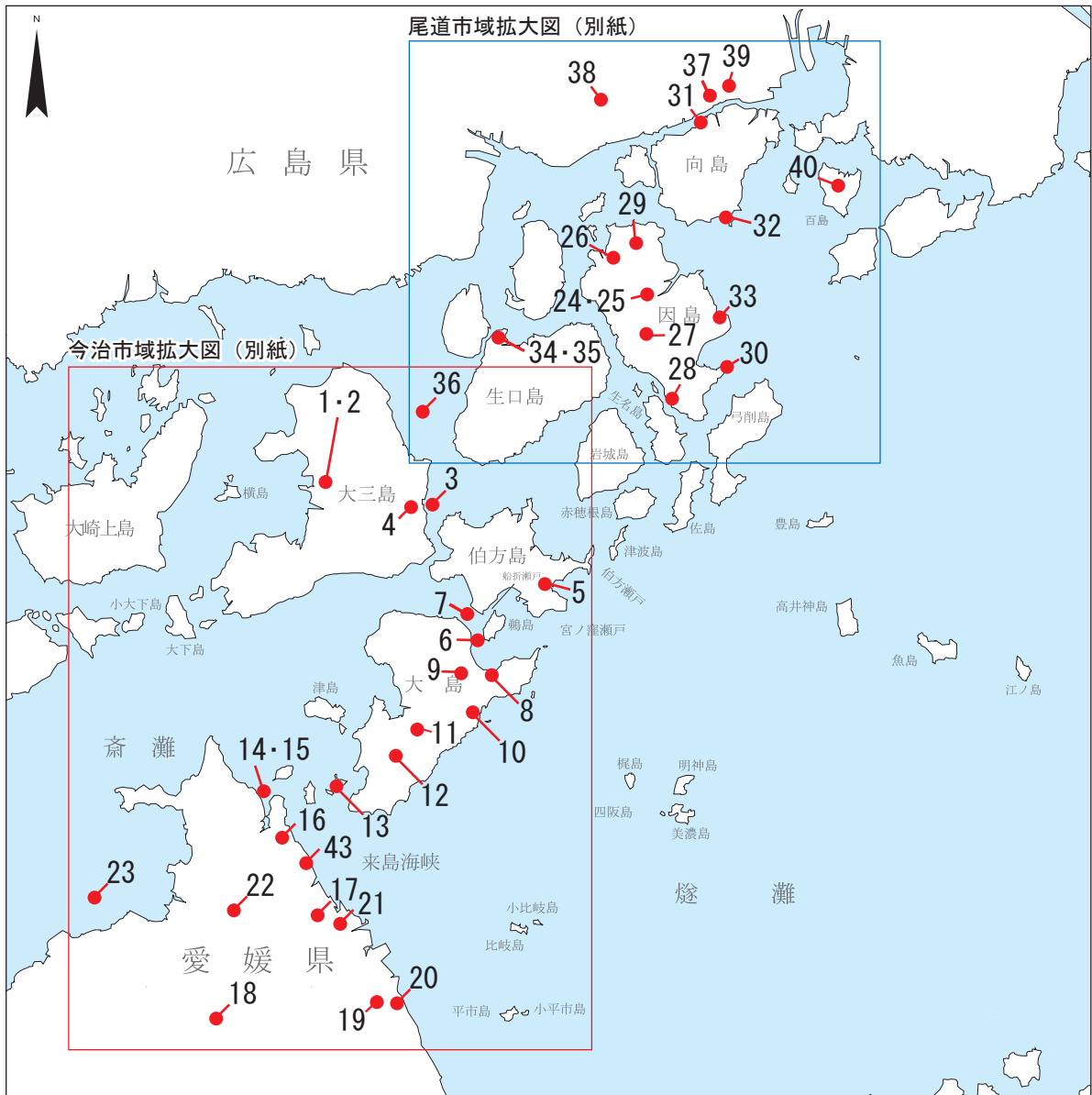


① 申請者	◎愛媛県今治市 広島県尾道市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島ーよみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶ー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。</p>			
		 	
(左) 村上海賊の海城・能島城と対岸の集落		(右上) 村上家伝来の陣羽織	
(右下) 村上海賊ゆかりの郷土料理「水軍鍋」			

市町村の位置図（地図等）

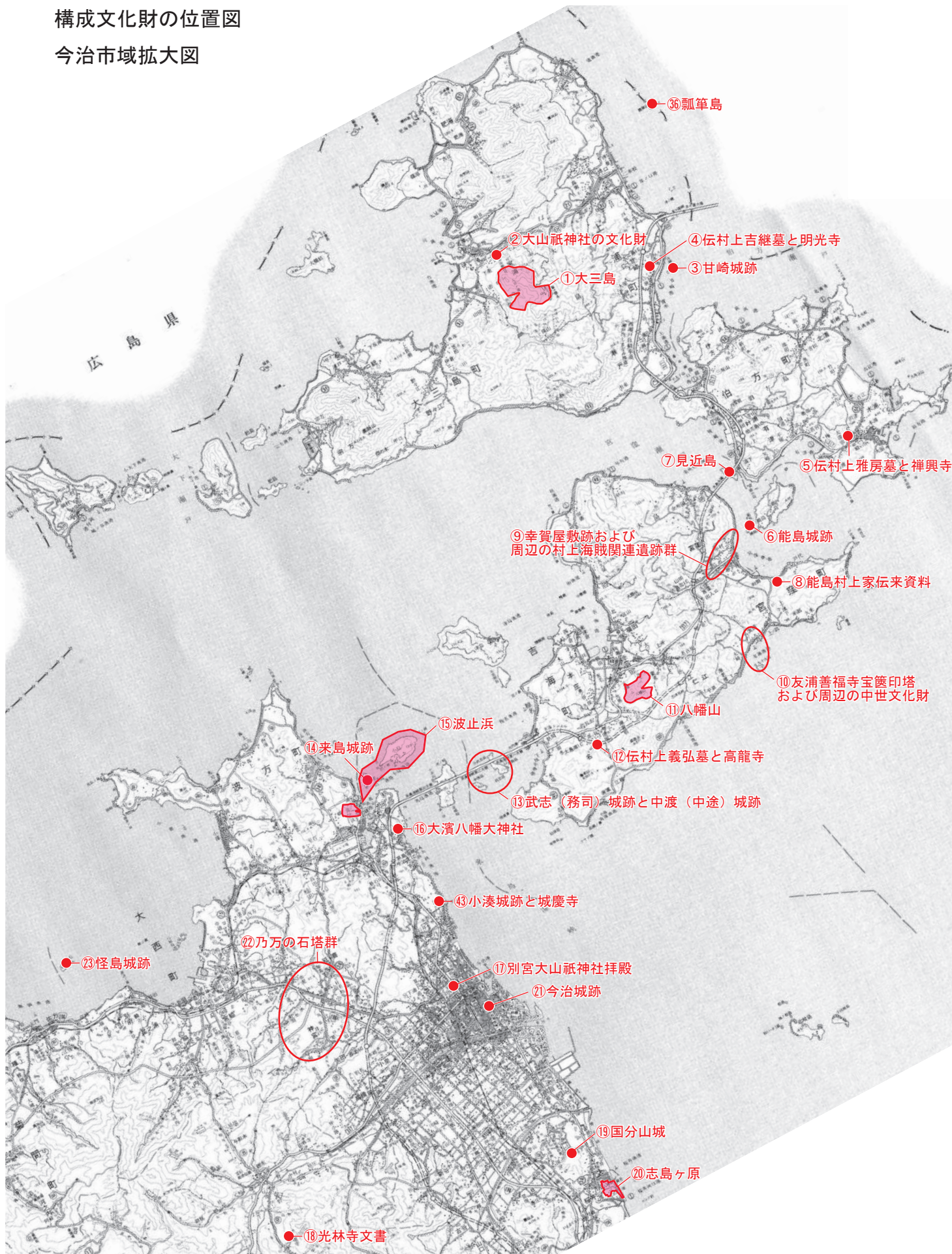


構成文化財の位置図（地図等）



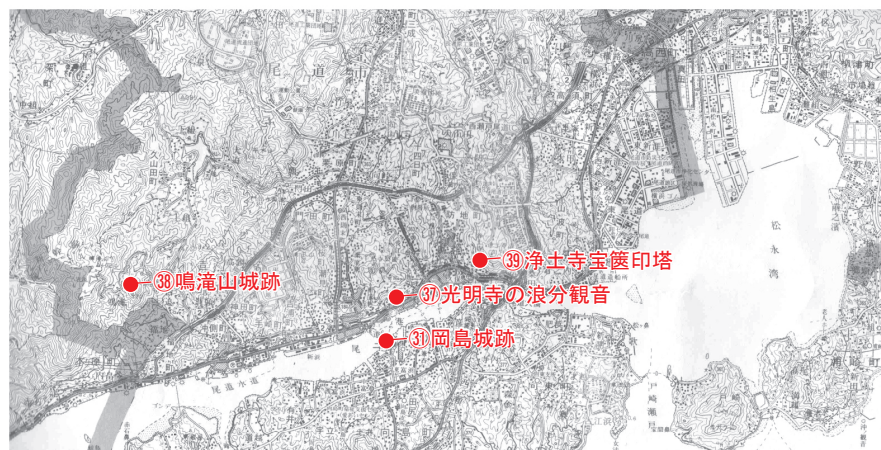
# 構成文化財の位置図

## 今治市域拡大図



# 構成文化財の位置図

## 尾道市域拡大図



## ストーリー

## ■瀬戸内海航路を掌握した「村上海賊」

1586年、堺を出港し、瀬戸内海を西へ航海していた宣教師ルイス・フロイスは、芸予諸島のある島に近づいた時のことを次のように記している。「その島には日本最大の海賊が住んでおり、そこに大きい城を構え、多数の部下や地所や船舶を有し」、「強大な勢力を有していた」(『完訳フロイス日本史』)、と。フロイスをして「日本最大」と言わしめた海賊。それが「村上海賊」である。

瀬戸内海を東西に分断するかのように、島々が南北に密集して連なる「芸予諸島」。一見、穏やかに見える海況だが、狭い海峡(瀬戸)にいざ船を進めると、大潮時には高低差3m以上にもなる潮の満ち干きや、最大10ノット(時速約18km)の潮流が容赦なく襲う。古来より航海者を悩ませてきた**海の難所**である。「船に乗るより潮に乗れ」。この地域に古くから受け継がれる漁師たちの言葉がそれを物語る。

村上海賊は、このような芸予諸島の**因島(広島県尾道市)**、**能島(愛媛県今治市)**、**来島(同)**に本拠をおいた**三家**からなる。同じ村上姓を名乗る三家は強い同族意識を持ち、それぞれの領内に多くの「**海城**」を築いた。フロイスが見た「大きい城」は、これらの海城である。

因島村上氏は余崎城、美可崎城、長崎城、青木城など、沿岸部に海城を築き、安芸・備後国の陸地部に沿った航路(安芸地乗り)を押さえた。能島村上氏は能島城を中心に芸予諸島の中央を通過する最短航路(沖乗り)を、来島村上氏は来島城を中心に四国側の航路(伊予地乗り)を押さえ、**三家が連携をして芸予諸島の全域を掌握した。**

多くの海城の岩礁には、高低差のある潮の満ち引きに影響されず、いつでも船が係留できるように、陸から海に向かって柱が立ち並んでいた。また海岸部を埋め立てて平坦面を造成し、荷揚げや海産物の加工場、造船や修理場に利用されていた。海城には海賊たちが住み込み、海戦に備える一方で、そこを拠点として多様な海上活動に従事したのである。さらに能島城や来島城などは、その対岸に「水場」と呼ばれる海城に水や物資を供給する場を持ち、その一帯を城下町として生活の本拠としていた。航路に面した前線の活動基地である「海城」と、その対岸にある集落が一体となって、村上海賊の本拠地が形成された。**南北に連なる芸予諸島の地の利を最大限に活かし、「海城」を航路の要衝に配置することで「海の関所」とし、瀬戸内海の東西交通を支配したのである。**

## ■全盛期における村上海賊の海上活動

一般に「海賊」と聞いて思い浮かぶのは、理不尽に船を襲い金品を奪う無法者の姿。いわゆる「パイレーツ」であろう。しかし村上海賊の海上活動の実態を正しく紐解けば、決して悪者ではなく、むしろ**瀬戸内海交通の秩序を支える上で不可欠な存在**であったことがわかる。

村上海賊が歴史上に姿を現したのは南北朝時代である。1349年には「野嶋」(能島村上氏)の名が見られ、東寺領の荘園であった弓削島に入る幕府の**船を警固する役割を持った勢力**として登場した。この頃には海上の小勢力の一つに過ぎなかったが、やがて因島村上氏が遣明船の警固を守護大名から命じられるなど、村上三家は陸の勢力との結束を固め、芸予諸島を本拠に瀬戸内海の主要な航路や港を掌握する一大勢力へと成長した。

戦国時代、村上海賊が活躍した海戦は枚挙に暇がないが、その代表的な海戦として、村上三家が連携をして織



瀬戸内海航路と主要海城の分布



村上海賊の海城・能島城と周囲の潮流(愛媛県今治市) 撮影者: 添畑薫氏

田信長方の船団に勝利をおさめた第一次木津川口合戦がある。中国地方の大名・毛利輝元は、室町幕府最後の将軍・足利義昭の命を受けて、信長と対峙する石山本願寺へ兵糧を運び込もうとする。毛利軍の主力であった村上海賊は、**海の難所で培われた巧みな操船技術**で敵を取り囲み、「ほうろく火矢」という火薬を用いた武器を用いて信長方を撃破し、無事に兵糧を運び入れることに成功した。この合戦で海賊の力を知った信長や羽柴秀吉は、海賊を味方につけ瀬戸内海の制海権を握るべく、懐柔作戦を展開する。村上海賊の存在は、**天下人や陸の大名の動向をも左右した**のである。

一方、平時には**芸予諸島の海城を拠点に様々な海上活動を展開**した。その一つが「**海の安全保障**」である。

芸予諸島に近づいたフロイス一行は、海賊に襲われる危険を回避し、航海の安全をはかるため、「署名」によって瀬戸内海を自由に通行できるよう、村上海賊に好意ある寛大な処遇を求めた。すると村上海賊は、「怪しい船に出会った時にみせるがよい」(『完訳フロイス日本史』)と言い、紋章が入った絹の旗と署名を渡した。フロイスらが手にしたこの旗が後に「**過所船旗**」と呼ばれる**通行許可証**である。村上海賊はこの旗を配布し、あるいは海賊を船に乗せて**水先案内**を行うことで、津々浦々に潜む他の海賊や航路の難所から船を守り、その対価として通行料を徴収した。海の難所であるからこそ、この掟は重視され、大名や商人の船はこれに従うことで航海の安全が保障されたのである。この通行料を徴収する海の関所を「**札浦**」と言うが、芸予諸島を基点として、全盛期には九州北部から畿内における航路の要港に「**札浦**」が設けられるほどに勢力を拡大した。

また海の安全保障者のほかに「**商人**」の顔も垣間見ることができる。能島城の目と鼻の先にある見近島は、商品である中国産の貿易陶磁器や備前焼を一時的に保管する物流の基地であった。村上海賊が物資流通に関与することにより、その**本拠地である芸予諸島には国内外の高級な品々や優雅な文化がもたらされた**のである。

### ■村上海賊の生活・文化

とかく猛々しいイメージで語られる海賊であるが、大名と同じように、優雅に茶や香をたしなむ「**文化人**」でもあった。また高い文学の教養を持っており、それを知るものとして、大山祇神社(今治市大三島)に奉納された「**法楽連歌**」がある。神の島と呼ばれる大三島に鎮座する大山祇神社は、その歴史は古代にさかのぼり、日本総鎮守、伊予国の一宮とされ、武功や海上交通の安全を守る神として海賊たちの信仰を集めた。このような由緒のある神社で、村上海賊の武将たちは自らの思いを詠み連ね、それを奉納することで武運を祈願したのである。因島では、武運を祈り、戦勝を祝って踊ったとされる「**棕浦の法楽踊り**」が現代に伝わっている。

さらに村上海賊には「**漁業者**」としての顔もあった。瀬戸内海の新鮮な魚介類を獲り、時には、それをお歳暮として陸の大名に送り届けた。芸予諸島で食される海鮮料理「**法楽焼**」や「**水軍鍋**」は、村上海賊時代から伝わる郷土料理とされており、豪快に盛られた海の幸に、海賊たちの食文化を垣間見ることができる。

このように、村上海賊が築いた海城群、海賊たちが崇めた寺社、伝統を受け継ぐ海の文化は、現在もこの地域に色濃く残っている。**尾道・今治をつなぐ現在の芸予諸島をゆけば、瀬戸内海随一の美しい多島海とともに、中世の瀬戸内海航路を支配し、“日本最大の海賊”と称された村上海賊の記憶をたどることができる。**



「怪しい船に出会った時にみせるがよい」  
村上海賊から交付される過所船旗



大山祇神社で法楽連歌を詠む海賊たち  
(香川元太郎画)

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	おおみしま 大三島	国名勝	村上海賊が本拠を置いた芸予諸島の多島美を象徴する景観が残り、村上海賊が氏神として崇めた大山祇神社が鎮座する。	今治市
②-1	おおやまつみじんじや 大山祇神社の文化財	国宝・国重文・ 国天然記念物	村上海賊ら海の武将たちは、境内にクスノキが群生する荘厳な雰囲気が漂う大山祇神社を氏神として崇め、武運や海上交通の安全を祈った。名高い武将らが奉納したとされる武具・武器類の中に、村上海賊の武将もその名を連ねる。鎌倉末期の巨大な宝篋印塔は、尾道の大工念心の銘が刻まれ、職人たちの活発な南北の交流を見ることができ、このような芸予諸島の紐帯関係を背景に、村上海賊がこの地で台頭したと考えられる。	今治市
②-2	大山祇神社法楽連歌 ほうらくれんが	国重文(典籍)	戦国時代には、連衆の中に村上海賊の武将たちの名も見え、海賊の高い教養や文化力を知ることができる。海賊たちは由緒ある大山祇神社で自らの思いを詠み連ね、武運を祈ってそれを奉納した。	今治市
③	あまざき 甘崎城跡	県史跡	中世には、能島村上氏系の今岡氏や村上吉継(来島村上氏)の拠点であった。島全体を城郭として利用した海城で、海の難所とされる鼻栗瀬戸を押さえる位置にある。村上海賊が去った後も、藤堂氏によって近世城郭として改修された唯一の中世海城。	今治市
④	よしつぐ みょうこう 伝村上吉継墓と明光寺	未指定	村上吉継の墓と地元で言い伝えられている宝篋印塔が祀られている。明光寺は、村上吉継の居城であった甘崎城の対岸にある「水場」集落にあり、近世初期に甘崎城を改修した藤堂氏がこの地に移したとされる。	今治市
⑤	まさふさぎ ぜんこう 伝村上雅房墓と禅興寺	市天然記念物	はかたきのうら 伯方島木浦地区にある禅興寺は、能島村上氏の村上雅房の菩提寺と言われる。近くには、樹齢600年を超えるとされるオオクスがあり、その根元に雅房夫妻の墓があったと地元で伝わっている。	今治市

⑥	のしま 能島城跡	国史跡	能島村上氏が居城とした典型的な海城で、大島と鶴島との間の宮窪瀬戸にある。島の頂部から三段に削平して郭とし、東側、南側に延びる鼻の頂部にも出郭を形成した。周囲の岩礁地帯には、護岸や船を繋ぐための施設である無数の柱穴が残る。南北朝時代から戦国時代末期に機能した。	今治市
⑦	みちかじま 見近島	未指定	能島城の北方約 1 km に位置する能島村上氏の物流基地。小規模集落から、大名の城館に匹敵する質・量の貿易陶磁器や備前焼など流通品が出土した。	今治市
⑧	のしま 能島村上家伝来資料群	市有形含む	今治市村上水軍博物館で保管・展示している能島村上家に伝わる資料。全盛期の当主、村上武吉が着用したと伝わる猩々陣羽織や、中世の黒韋威胴丸、色々威腹巻などがある。	今治市
⑨	こうがやしき 幸賀屋敷跡および周辺の 村上海賊関連遺跡群	市史跡	能島村上氏の陸地部の拠点集落推定地。「幸賀屋敷跡」や隣接する「さんの遺跡」では、14 世紀から 17 世紀初頭にかけての遺物が出土し、その背後に延びる丘陵には郭跡が確認され、「宮窪城」と地元では呼ばれている。近くには村上氏の菩提寺とされる旧証名寺跡があり、その周辺には、「かしや(鍛冶屋)」「ばんぢよ給(番匠給)」など城下町を思わせる地名が残る。また能島城対岸には「水場」という地名が残り、能島城に水や物資を供給する拠点であったと推測される。さらに、現在の証明寺および海南寺には中世の宝篋印塔が残るなど、陸地部には村上海賊時代の文化財が色濃く残っている。	今治市
⑩	ともうらぜんぶくじほうきょういんとう 友浦善福寺宝篋印塔および 周辺の中世文化財	国重文(石造 美術)・市有形	村上海賊の前身となる伊予大島の有力な勢力が存在していたことを示す鎌倉時代末期、嘉暦元(1326)年銘が入った宝篋印塔。友浦地区周辺には、鎌倉時代中期の善福寺地藏菩薩立像など、同時代の文化財が多く残る。その沖合には、村上海賊の時代の海城、九十九島城が築かれた。	今治市
⑪	やわたやま 八幡山	国名勝	村上海賊が活動した島々の美しい景観が眼下に広がる景勝地。大島のほぼ中央部にある標高 215m の八幡山の頂上からは名勝大三島、同波止浜をはじめ、瀬戸内海一帯の島々を眺めることができる。	今治市

⑫	伝村上義弘墓と高龍寺 よしひろ こうりゅう	未指定	南北朝時代に活躍したとされる村上氏の伝説的武将、村上義弘の墓と地元で伝わる宝篋印塔とその菩提寺。義弘の人物像は不明だが、南朝方を救った武将として、村上武吉と並んで地元では英雄的存在。	今治市
⑬	武志(務司)城跡と中渡 (中途)城跡 むし なかと	未指定	来島海峡を押さえるために築かれた能島村上氏の海城。来島海峡の西側は来島村上氏の来島城が、中央と東側は能島村上氏が分担をして海峡を支配した。1585年、羽柴秀吉の四国平定により、能島村上氏は両海城を明け渡した。	今治市
⑭	来島城跡 くるしま	未指定	来島村上氏の居城であった来島城。島の自然地形を活かして多くの郭が築かれた。島の周囲の岩礁には、無数の柱穴があり、船を繋ぐための施設が充実している。関ヶ原合戦後に廃城となったと考えられる。	今治市
⑮	波止浜 はしはま	国名勝	来島村上氏の居城、来島城を含む芸予諸島の多島美を象徴する景勝地。村上海賊が生きた当時の景観が残る。	今治市
⑯	大濱八幡大神社 おおはま	未指定	来島城の城下町として史料に登場する大濱地区に鎮座する。大永4(1524)年の同社造営棟札は、来島村上氏が来島城に在城していたことを示す初見史料である。	今治市
⑰	別宮大山祇神社拝殿 べつぐ おおやまづみ	県有形	天正3(1575)年に来島村上氏の村上通総 <small>みちふさ</small> が拝殿を修築した大山積神を祭神とする神社。	今治市
⑱	光林寺文書 こうりん	市有形	能島村上氏全盛期の当主村上武吉が同寺に灯籠を寄進したことを示す古文書。	今治市
⑲	国分山城跡 こくぶんさん	未指定	天正12(1584)年に村上武吉が普請(築城・改修)した今治平野の拠点城郭。今治城が築かれるまで機能した。	今治市
⑳	志島ヶ原 ししまがはら	国名勝	かつて村上海賊が眺めた瀬戸内海を象徴する「白砂青松 <small>はくさいしょう</small> 」の景勝地。村上海賊が普請した国分山城の麓に広がる。	今治市
㉑	今治城跡 いまぼり	県史跡	村上氏が去った後、国分山城に替わって藤堂高虎が築いた当時最新鋭の近世海城。来島海峡の地政学的重要性が村上海賊時代から継承されたことを示し、芸予諸島に残った海の人々がこの城を舞台に活躍した。	今治市

②	乃万地区の石塔群	国重文(石造美術)	村上海賊の時代に発展を遂げる島々をつなぐ南北の交流の礎となった、鎌倉時代末期から南北朝時代の石造文化を代表する宝篋印塔群。乃万地区の延喜・野間・神宮などに多くみられる。その意匠に芸予諸島を介した職人の移動の証を見ることが出来る。	今治市
③	怪島城跡	市史跡	来島村上氏の家臣である神野左馬允の居城と伝わる城。小島全体を城郭化した海城で、島の頂部に郭が形成される。	今治市
④	因島村上家伝来資料群	県重文・市重文	因島水軍城で保管・展示している因島村上氏の末裔に伝来する資料白紫緋糸段緘腹巻 一領、紙本着色村上新蔵人吉充像 一幅、紙本墨書因島村上家文書 卷子3巻などがある。	尾道市
⑤	因島村上氏一族の墓地	市史跡	因島村上氏の本拠であった中庄に造営された菩提寺に、かつて分散していた因島村上氏一族や家臣の墓とされる宝篋印塔18基と多くの五輪塔が裏山の墓地に集積されている。	尾道市
⑥	青木城跡	県史跡	因島村上新蔵人吉充が向島の余崎城より移り居城した。因島のほぼ北端、城は現在の重井東港を望む小丘陵上に在り、比較的旧状をよく保った郭が5段重なり、武者走りも残っている。	尾道市
⑦	青陰城跡	県史跡	この城は海城ではなく、戦国山城であり長崎・青木・余崎などの連絡場所であった。因島村上氏が戦国大名の性格をもつと、本城の役割を果たすようになった。因島のほぼ中央部、風呂山と龍王山に挟まれた青影山頂にあり、三庄方面を除く島のほぼ全域及び周辺海域が見渡せる場所に位置している。	尾道市
⑧	長崎城跡	県史跡	因島村上氏の初期の本拠地で、海側には岩礁ピットも残っている。航路を見張る重要な拠点であった。因島の南西部、瀬戸に面した海城であり、背後の丘陵には荒神山城跡がひかえる。	尾道市

②⑨	しらたきやま 白滝山（五百羅漢像）	市名勝	白滝山は因島村上氏の村上吉充が青木城を築いたとき、この山を控えの要害として設定し観音堂を造営した。その後、柏原伝六は観音道一観と称し大石仏三尊像や、五百羅漢の石仏工事に着手した。一体ずつ顔が異なる石仏は700体ほどあり、松林と岩石の自然に溶け込んで独特の雰囲気醸し出している。	尾道市
③⑩	地蔵鼻（鼻の地蔵）、 みかさきじょうあと 美可崎城跡	市史跡	美可崎城は、航路に面した海城で、古くから海の関所として機能していた。郭跡や船隠しなども残っている。地蔵石は、戦国時代の石造物で美可崎城の武将と船で通りかかった娘との悲しい伝説を残す巨岩に彫られた石仏である。	尾道市
③⑪	岡島城跡	未指定	港町尾道の玄関口に位置し、かつては、「関の大将」と呼ばれた大海賊の居城であったが、その後、小早川隆景と手を結んだ因島村上氏により、駆逐され、因島村上氏の城となった。	尾道市
③⑫	よさき 余崎城跡	未指定	弘治元年の厳島の戦いでの報償として向島を得た村上氏の本拠地として、因島に面した向島南部の半島に築かれた海城である。岡島城跡とともに港町尾道への航路をにらむ重要な拠点であった。郭跡や船隠しなどが残り、また、現在でも当時の姿の美しい景観を残している。	尾道市
③⑬	むくのうら 棕浦の法楽おどり	県無形民俗	村上海賊が、出陣の時は棕浦で戦いの勝利と隊士の安全を祈り、帰陣の際は勝利を祝うとともに戦没者の追悼を行ったというが、その時の行事が「法楽おどり」の起源であるという。侍らしい軽装に太刀、早駆けの姿勢や跳ぶような動作、六字の名号に大幡など、現在でも続く伝統芸能である。	尾道市
③⑭	たわらぎきじょうあと 俵崎城跡	未指定	村上海賊とともに毛利氏に従っていた生口氏の居館的役割を果たした海城である。当時尾道に次ぐ港町であった瀬戸田を管理していた生口氏によって築かれた。生口氏は、第一次木津川口合戦において村上三家とともに、毛利方の武将に名を連ねた芸予諸島の海の勢力。	尾道市

③⑤	こうじょう 向上寺三重塔	国宝	向上寺は生口氏が創建した寺院であり、室町時代初期建立の三重塔は多島美と調和した美しい景観を形成している。	尾道市
③⑥	ひょうたん 瓢箪島	国登録記念物 (名勝地)	村上海賊がかつて闊歩した島々の景観を代表する景勝地。瓢箪のような形から名前がつけられた。大三島と生口島間にあり、両島の神が島に綱をかけて引き合ったため、島の中央がくびれてしまったというユニークな伝説がある。	今治市・尾道市
③⑦	なみわけかんのん 光明寺の浪分観音	国重文	村上海賊の武将、島居資長 <small>しまずいすけなが</small> が寄進したもので、水軍の海難を防ぐ信仰として、浪分観音の異名がある。村上海賊と港町尾道の関係がうかがえる資料。	尾道市
③⑧	鳴滝山城跡	市史跡	鳴滝山城は、港町尾道の玄関口に位置し、城主宮地氏は尾道の海運を監視する役割を担ったが、鳴滝山城はその後攻め落とされ、城主宮地氏は因島村上氏を頼り、因島に移った。その後、村上氏の家老として、港町尾道の海運力を水軍の交易力に生かし尾道と水軍をつなぐ役割を果たした。	尾道市
③⑨	浄土寺宝篋印塔	国重文	村上海賊が史料上に登場する南北朝時代の宝篋印塔。「越智式」と呼ばれる芸予諸島から今治平野に見られるタイプで、村上海賊時代に発展を遂げる島々を介した南北の交流の礎とも言える石造物文化。それを示す尾道側の代表的事例である。	尾道市
④⑩	ももしま 百島茶臼山城跡	未指定	1504年、因島村上氏の村上喜兵衛義高 <small>きへえよしたか</small> が百島に築いた城。百島は、尾道と鞆の浦のほぼ中間にあり、山陽側の航路の要衝として重要な位置にある。	尾道市
④⑪	ほうらく 法楽焼	未指定	尾道市から今治市にかけて食される伝統料理。起源は定かではないが、法楽焼は、村上海賊の武器「ほうろく」にちなんだ料理で、戦勝の祝いに食べたとも伝わる。	今治市・尾道市

④②	水軍鍋	未指定	尾道市から今治市にかけて食される伝統料理。起源は定かではないが、水軍鍋は芸予諸島で獲れた海の幸を鍋にしたもので、海賊たちが新鮮な魚介類を船の上で豪快に食していたことに由来するという。	今治市・尾道市
④③	こみなとじょうあと じょうけい 小湊城跡と城慶寺	未指定	来島海峡に面した丘陵に築かれた村上海賊の城郭。関ヶ原合戦後も、藤堂高虎が繋ぎの城として重要視したとされる。城慶寺はその城域にあり、来島村上氏ゆかりの寺と伝わる。	今治市

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

## 構成文化財の写真一覧

### ①大三島



### ③甘崎城跡



### ②-1 大山祇神社の文化財



### ②-2 大山祇神社法楽連歌



海に向かって立ち並ぶ係留用の柱穴跡

## 構成文化財の写真一覧

④伝村上吉継墓と明光寺



⑤伝村上雅房墓と禅興寺



⑥能島城跡



⑦見近島



## 構成文化財の写真一覧

⑧能島村上家伝来資料群



⑩友浦善福寺宝篋印塔および周辺の文化財



⑨幸賀屋敷跡および周辺の村上海賊関連遺跡群



⑪八幡山



## 構成文化財の写真一覧

⑫ 伝村上義弘墓と高龍寺



⑬ 武志（務司）城跡と中渡（中途）城跡



⑭ 来島城跡



構成文化財の写真一覧

⑮波止浜



⑰別宮大山祇神社



⑯大濱八幡大神社



⑱光林寺文書



## 構成文化財の写真一覧

⑱国分山城



㉒乃万地域の石塔群



㉓志島ヶ原



㉔今治城跡



㉕怪島城跡



## 構成文化財の写真一覧

⑳ 因島村上家伝来資料群



㉑ 青陰城跡



㉒ 長崎城跡



㉓ 因島村上氏一族の墓地



㉔ 白滝山（五百羅漢像）



㉕ 青木城跡



## 構成文化財の写真一覧

③〇地蔵鼻（鼻の地蔵）と美可崎城跡



③②余崎城跡



③①岡島城跡



③③棕浦の法楽おどり

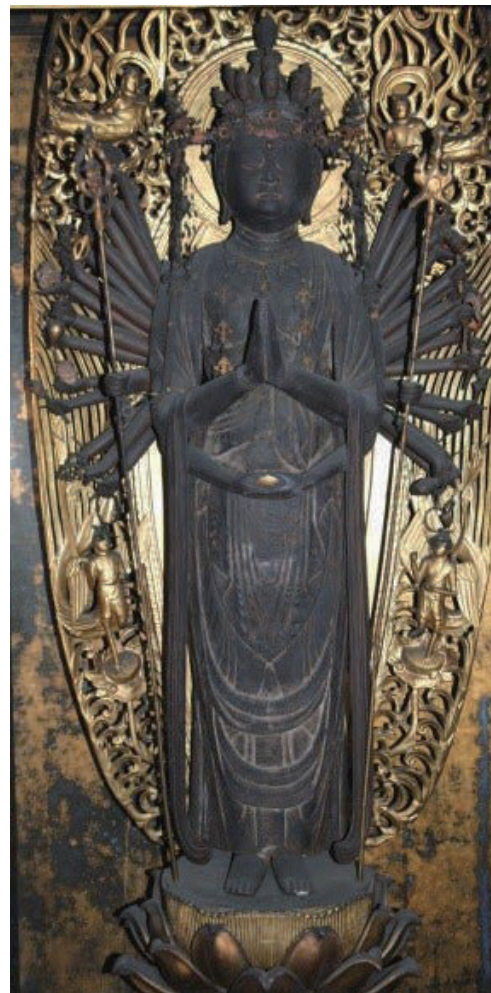


構成文化財の写真一覧

③④ 依崎城跡



③⑦ 光明寺の浪分観音



③⑤ 向上寺三重塔



③⑧ 鳴滝山城跡



③⑥ 瓢箪島



構成文化財の写真一覧

③⑨ 浄土寺宝篋印塔



④① 法楽焼



④② 百島茶臼山城跡



④③ 水軍鍋



④④ 小湊城跡と城慶寺



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
36	“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島 ーよみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶ー

## (1) 将来像 (ビジョン)

## 「Murakami KAIZOKU」を世界へ

愛媛県今治市と広島県尾道市に広がる芸予諸島は、古来から海上交通の要衝であり、戦国時代にはこの地に本拠を構え、「日本最大の海賊」と記録された村上海賊が活躍した。村上海賊の活躍の記憶は、その後の地域に脈々と受け継がれ、現在においても芸予諸島に住む人々のアイデンティティを形成している。また、村上海賊が育んだ日本固有の海の文化は、世界でも類を見ない海事産業にもつながっている。そして、多島美に象徴されるしまなみの景観とともに、戦国時代から継承される村上海賊の歴史文化や精神性は、国内外からの来訪者を魅了してやまない唯一無二の地域資源である。さらに、芸予諸島を縦断する瀬戸内しまなみ海道は、そうした地域資源と立地に魅了された世界中のサイクリストが楽しめる「サイクリストの聖地」でもある。

そこで、現在の状況をさらに加速するために描く将来像として、構成文化財をはじめとする歴史文化資源を積極的に調査研究し、その成果をふまえて保存活用され、それにより村上海賊ストーリーによる唯一の体験ができる地域として国内外からの来訪者等による地域の活性化が進み、住民にとっても自分たちの由緒に誇りをもち、地域内の活動に積極的に取り組むことで、歴史文化資源の調査研究と保存活用が進むという好循環がおきている地域に設定する。

その将来像では、来訪者は地域資源とアクティビティを融合させ、唯一無二の体験ができる村上海賊ストーリーにより、本地域の特性と歴史文化を理解し、魅力を感じることができ、民間事業者は本協議会とともに「Murakami KAIZOKU を世界へ」をキーワードに、HP やパンフレットの多言語化、ツアー造成、インバウンドガイドや地域プレイヤーの育成、商品開発等、様々な事業に取り組むことで、村上海賊ストーリーによる唯一の体験ができる地域として地域活性化が進む状態、また、地域住民は「村上海賊」という由緒に誇りをもち、積極的に歴史文化資源の保存活用に取り組む状態となることを目指す。

村上海賊×アクティビティ×食などの村上海賊ストーリーを体験できる様々な場所が地域内にあり、そこをつなぐサイクリングやクルーズ等の媒体が整備され、国内外からの来訪者が何度も訪れる地域であること、内的には地域住民が自分たちの由緒に誇りをもち、地域内の活動に積極的に取り組める環境となることを目指す。

そのために、今までの取組の成果と課題を反映しつつ、第2次今治市総合計画後期基本計画、尾道市総合計画後期計画で記載している本地域の歴史的背景である日本遺産を基本軸として、具体的な実施計画である尾道市歴史的風致維持向上計画、今治市観光振興計画、日本遺産地域活性化計画に沿って、日本遺産を含む地域資源の積極的な保存活用とその実現のための各事業を展開する。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：村上海賊ミュージアム、因島水軍城の来訪者数（単位：人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	94,801	98,036	78,971 (R6.12)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	100,000	100,000	100,000	104,000	104,000	104,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	村上海賊の歴史的資料を展示しており、そのストーリーに直接的に触れることができる施設の来訪者数を目標値とする。数値は各施設の来館者数の合計を算出する。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：潮流体験及び上陸ツアー参加者数（単位：人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	20,022	20,692	21,400 (予想値)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	22,000	22,700	23,400	24,100	24,800	25,500
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2025年度を22,000人と推定し、毎年700人増加と想定。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：児童、生徒、学生等が日本遺産「村上海賊」を誇りに思う割合						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	96	93	92			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030

数値	90	90	90	90	90	90
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各イベント等において実施したアンケート調査により日本遺産「村上海賊」を誇りに思う割合を算出する。出前授業、文化財愛護少年団、尾道市立大学等でアンケートを実施。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：村上海賊ミュージアム・因島水軍城での村上海賊関連グッズの売り上げ（単位：千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	8,988	7,662	6,828 (R6.12末)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	7,500	7,500	7,500	8,000	8,000	8,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	村上海賊ミュージアム・因島水軍城の物産コーナーにおける村上海賊関連商品の売り上げを、経済効果の一つの指標とする。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：村上海賊のロゴマーク使用にかかる寄付金額（単位：千円）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	92	181	221			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	200	200	200	220	230	240
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	村上海賊のロゴマークを使用して商品を売り上げた場合の売り上げの一部（5％）の寄付金額。前半3年間は、200千円を維持しつつ、ロゴマークを使用した商品の販売拡大に注力。後半3年間で安定的に200千円以上の寄附をいただけるよう設定。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込客数（単位：千人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			

数値	7,730	9,232	2,677 (尾道市は 集計中)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	9,823	9,921	9,950	9,982	10,017	10,056
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	地域へ広く経済効果が波及していることの指標として地域への観光入り込み客数(尾道市は観光客数)を目標値として設定する。 尾道：尾道市総合計画 2026 目標 7,103 千人 今治：今治市観光振興計画の目標数値					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤-B：地域の外国人観光客数（単位：人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	未集計	586,142	282,967 (尾道市は 集計中)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	512,000	541,000	560,000	562,000	564,000	566,000
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	尾道市総合計画 2026 目標 341 千人、今治市 2023 年数値(215,000 人)を基準に、毎年 2,000 人増加で設定。					

(3) 地域活性化のための取組の概要	
<p>●地域の現状</p> <p>広島県尾道市と愛媛県今治市は、もともと村上海賊の歴史文化を地域のアイデンティティの一つとして親しまれていて、日本遺産認定後も2市の総合計画等の行政計画の基本軸として提示し、村上海賊ビジターセンター設備整備や様々な情報発信、人材育成、普及啓発、調査研究の各種事業を実施してきた。そこには芸予諸島(しまなみ海道)というアクティビティ産業の好立地とも適合し、国内外から多くの来訪者が訪れ、地域活性化が進むとともに、地域住民のシビックプライド醸成にも役立っている。現在では、民間事業者との連携事例も増加し、ふるさと納税等による資金確保という循環が生まれつつある。</p> <p>●これまでの成果</p> <p>1 村上海賊ビジターセンターの整備</p> <p>村上海賊ミュージアム(今治市)と因島水軍城(尾道市)の2つのビジターセンターを情報発信、普及啓発、人材育成、調査研究の核となる施設とし、解説パネルや多言語解説整備、関連商品販売等を民間事業者と連携して実施し、コロナ禍を経験しても着実な来訪者数維持ができています。</p>	

2 海賊鍋つゆ、因島村上海賊焼き、海賊むすび等食文化関連商品の連携  
文化観光の推進とともに、村上海賊のブランドと地域のあらゆる産業の融合を進めている。全国的な知名度を誇る今治タオルや、村上海賊の歴史がつなぐ海事産業、八朔・レモンなど生産量全国レベルの柑橘など、民間事業者等が自ら主導して村上海賊を活用した体験や関連商品を開発し、村上海賊を核として地域経済を循環させ、産業の活性化を進めている。

3 村上海賊×アクティビティによる旅行商品造成、イベント実施  
地域住民も積極的に関心を持ち、地域住民、事業者、行政それぞれが村上海賊という共通の地域資源を、船や環境負荷の少ないサイクリングやトレッキング等を活用することにより、日本でここでしか体験できないコンテンツを造成した。あわせて、SDGsに掲げられる社会問題の解決に、観光を通じて貢献した。

両市では、因島水軍まつりや水軍レース大会等、以前から地域資源を活用したイベント等を行ってきており、村上海賊の魅力を体験できるイベントとして、連携し情報発信等を行った。

4 インバウンドを含めた観光ガイド養成と学校への出前講座  
小中高校大学生などの若い年代に地域の海賊文化に触れてもらうことで、若年層の探究心を刺激するとともに、将来的に地域の文化遺産の伝承者となるよう普及啓発を行った。村上海賊への愛着醸成により、進学・就職等で域外へ出たあとも、自らがその魅力の発信者になることができる。村上海賊の歴史は地域の主要産業のひとつである海事産業にもつながっており、その伝承は将来の地域産業の担い手の確保にもつながるものである。

5 マーケティング調査、アンケート等の実施による情報把握、活用  
マーケティング等の調査によりターゲットをより明確化し、西洋のパイレーツとは異なるKAIZOKU という日本固有の海賊文化を世界に発信している。NINJA や SAMURAI と並ぶKAIZOKU という日本固有の海賊文化で世界的な MurakamiKAIZOKU のブランドを確立させ、日本よりはるかに大きなマーケットであるインバウンドにおいて、村上海賊の存在感をあげ、外資の引き込みを想定している。

#### ●課題

- 1 継続的なインバウンドのマーケティング調査の実施
- 2 他地域の日本遺産や観光資源との連携
- 3 高所得者層（インバウンド含む）の誘致
- 4 人口減少、少子高齢化による地域活動、民俗芸能の継承
- 5 サイクリング等での来訪者への情報発信。宿泊や観光消費への誘導

#### ●今後の取組

1 マーケティング調査の継続実施と国内外への情報発信強化  
これまでの地道な情報発信、普及啓発活動により国内での「村上海賊」の認知度は少しずつ上がってきているが、海外においてはまだまだ認知度が低いのが現状である。そこで、マーケティング調査などを継続的に実施し、インバウンド誘客の専門人材等のアドバイスも活用し戦略的な情報発信を行う。日本が世界に誇るアニメやキャラクター文化とも融合させ、村上海賊のキャラクター等を活用したPR も行う。

## 2 「海賊」のネットワークを活かした調査研究の推進と他地域との相互交流の促進

日本各地で活躍した他の海の勢力の並行研究により、サブストーリーの磨き上げを行うと同時に、「産業」や「歴史」、「文化」、「食」等のキーワードを絡め、構成文化財について新たな魅力の掘り起こしを行い、地域資源化につなげる。大分県玖珠町や岐阜県可児市等、村上海賊や城跡を共通テーマとした、地域の小学生の相互交流などを通じて相乗的に地域PRにつなげていく。

## 3 村上海賊と自然、アクティビティ、交通産業を組み合わせた観光振興を推進

ナショナルサイクルルートに認定されたサイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」の特性を十分活用し、サイクリング目的の観光客をターゲットに+村上海賊ストーリー体験の情報発信を行い、滞在時間の拡充を進める。また、相性の良いマリンスポーツや城跡トレイルの整備、構成文化財や観光施設を巡る滞在型コンテンツの創設、広域観光周遊ルートの形成によりスポーツ・文化・観光の交流人口の拡大を図り、滞在時間の延長、観光消費額の増加に繋げる。

## 4 村上海賊と地場産業との融合

当地域は風光明媚な景観、瀬戸内の海の幸をはじめとした豊かな食文化を有し、村上海賊の歴史が紡いだ造船などの海事産業が栄え、今治タオル等の地場産業も盛んである。また、アジアまで広く交易をしていた村上海賊が持ち帰った果実や苗が交雑して生まれたともいわれる八朔や安政柑などがあり、全国有数の柑橘の産地となっている。これらのように多彩にあふれる地域資源を、村上海賊とかけあわせ新たなコラボ商品の開発や取組みを実施し、地域産業のさらなる活性化に日本遺産を通じて貢献していく。民間団体等が村上海賊を活用した商品開発を行う際は積極的な支援を行う。

## 5 村上海賊の海の文化の地域内外への浸透

さまざまな地域団体や教育機関などと連携して、市民へ村上海賊の普及啓発を行い、地域住民が「村上海賊」について学び、体験し、村上海賊への正しい理解と愛着を持ち、自ら情報発信主体となることで、これからの SNS 時代の情報発信のけん引役となってもらうことを目指す。毎年全国各地から学生が集まってくる大学等において、村上海賊について学んでもらう機会を提供し、継続して村上海賊の普及活動を行うとともに、学生たちの新鮮な視線も積極的に取り入れ、さまざまな方向から村上海賊の情報発信を行う。また、オンライン等で村上海賊について学んだり体験したりできるコンテンツを開発し、幅広い層、世代に村上海賊について知ってもらえるチャンネルを構築する。進化する SNS を積極的に活用し、継続的な情報発信体制を敷き、国内外問わずインフルエンサーの活用も検討する。

### (4) 実施体制

#### ・協議会の名称

村上海賊魅力発信推進協議会

#### ・構成団体

今治市・尾道市文化財保護委員会、今治商工会議所、越智商工会議所、しまなみ商工

会、公益財団法人今治地方観光協会、尾道商工会議所、因島商工会議所、尾道しまなみ商工会、(一社)尾道観光協会、(一社)因島観光協会、(一社)しまなみジャパン、今治市(総合政策部、教育委員会)尾道市(企画財政部)

・その他関係民間事業者等

瀬戸内 DMO、愛媛版 DMO、株式会社瀬戸内しまなみリーディング、WAKKA、株式会社しまなみ、村上海賊因島振興協議会、尾道観光土産品協同組合、株式会社瀬戸内クルージング、史跡能島城跡調査整備検討委員会、JA 尾道市、 等

#### 【戦略立案】

(国、県との連携、他地域との連携、他 DMO との連携、行政内他部署との連携)  
事務局(今治市・尾道市)

#### 【ブランド磨き上げ】

(ブランド作り)  
事務局(今治市・尾道市)、(一社)しまなみジャパン

#### 【インバウンドアプローチ】

(JNTO 等との連携、海外情報発信)  
事務局(今治市・尾道市)、(一社)しまなみジャパン

#### 【情報発信】

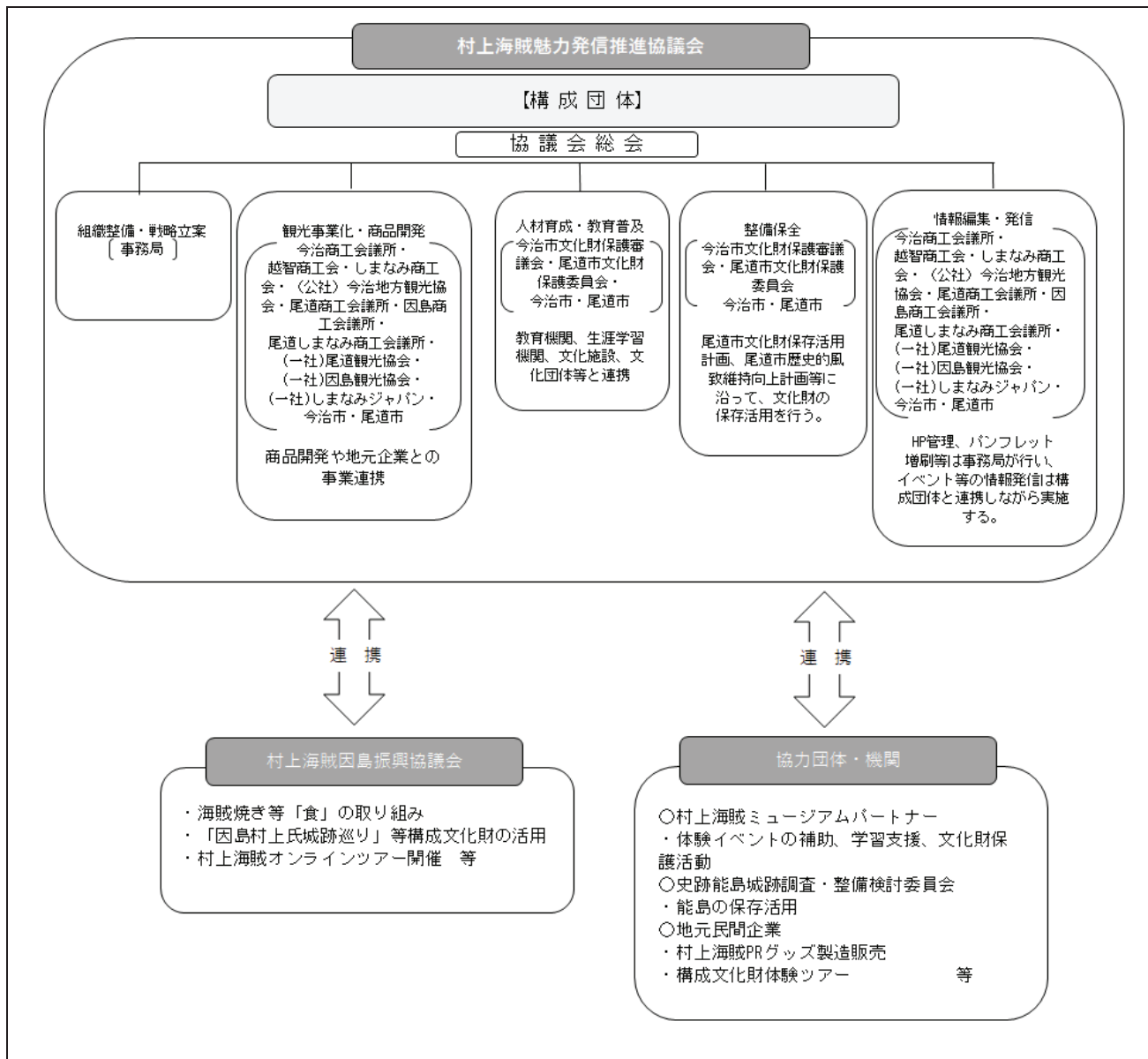
(WEB サイト、SNS、パンフレット作成、メディア対応)  
事務局(今治市・尾道市)、尾道観光協会、因島観光協会、今治地方観光協会、(一社)しまなみジャパン

#### 【商品開発】

(グッズ、飲食物、旅行商品、オンラインコンテンツ、体験コンテンツ等の開発)  
(一社)しまなみジャパン、因島観光協会、尾道商工会議所、因島商工会議所、尾道しまなみ商工会、今治商工会議所、越智商工会議所、しまなみ商工会、

#### 【保全】

(文化資源保存・整備)  
今治市文化財保護審議会、史跡能島城跡調査整備検討委員会、尾道市文化財保護委員会



**[人材育成・確保の方針]**

中長期的に人材を育成するため、本地域の小中、高等学校における出前講座やクルーズツアー等の体験、オンラインセミナー等の他地域との交流等を実施し、地域の歴史に興味と愛着をもつよう、シビックプライドの醸成を進める。また、地域の大学における日本遺産に関する講義やワークショップ等により、域外からの流入者へも村上海賊の魅力発信を行い、地域での大学との連携した活動等での活躍の土台とする。

民間事業者との連携により、観光ガイド、インバウンド対応ガイド等の確保を進め、ツアーやイベント等での養成を行う。

さらに、文化遺産パートナー養成講座やミュージアムパートナー養成等により、地域活動での活躍の場提供や連携事業の実施等、村上海賊と来訪者、民間事業者、地域住民の連携を進める人材育成と確保を目指す。

**(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走**

**●持続的な協議会運営のための自治体からの負担金**

日本遺産村上海賊の取組は、尾道市今治市の歴史文化を地域活性化のために活用するものであり、自治体からの負担金支援を継続する。日本遺産の各種事業は、両市の観光まちづ

くり直結しており、また、村上海賊ビジターセンターである村上海賊ミュージアムと因島水軍城等の施設とそこに関わる職員についても、行政管理の施設が多く、自治体からの継続的な支援は不可欠である。

#### ●民間事業者との連携・協力・協働による収益事業の実施

自治体からの負担金だけでなく、今後の自立自走へのステップのためにも、民間事業者との協力、連携は不可欠である。そこで、日本遺産の魅力を国内外に情報発信し、協議会構成団体や民間事業者による関連グッズの発売や旅行商品の造成など、日本遺産「村上海賊」ブランドを活かした、商品開発を積極的に支援する。特に村上海賊ストーリーを体験できる城跡ツアー、潮流体験、海賊グルメ等は、地域の地場産業とも関係して多くの民間事業者が参入しており、今後の事業者連携数増加も期待できる。今後は、滞在時間増加による宿泊施設等の増益も目指すよう、各種事業の取組を進める。また、日本遺産「村上海賊」のロゴマークを使用した商品の収益の5%を寄付してもらう仕組みを周知・活用し、協議会への運営資金の補填を目指す。

#### ●ふるさと納税と寄付金の活用

両市ともに日本遺産のために活用するふるさと納税を積極的に募っており、自治体からの負担金の財源としている。今後は、村上海賊関連の商品開発、販売等の中で、ふるさと納税の返礼品への活用等を進め、ふるさと納税額の増加による財源確保を進める。

また、今治市では村上海賊関連商品へのロゴマーク使用による寄付金制度を設定しており、自主財源としての確保を進める。

今後、大規模な関連イベントや構成文化財の保存修理等、多額の費用が必要な場合等、適宜クラウドファンディングの活用も検討し、積極的に自主財源確保を進める。

### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

#### ●日本遺産関連事業によるシビックプライドの醸成

日本遺産や構成文化財について講座等（文化財講座、文化遺産パートナー養成講座、文化財愛護少年団、学校等での出前授業、文化財巡り、教育研修旅行）を幅広い世代、市内外に向けて実施することにより、正しい理解の促進と文化財の愛護精神の醸成を図り、地域外からの来訪者に対するおもてなし精神が地域住民の間で生まれ、ますます旅行商品の造成等につながる。そして、構成文化財を含む様々な歴史文化資源に関わる人材の育成、維持にもつながる。

#### ●日本遺産と歴史まちづくりの取組

構成文化財には国宝や国の史跡、重要文化財が多く含まれており、尾道市では尾道市歴史文化基本構想・文化財保存活用計画、尾道市歴史的風致維持向上計画に沿って、所有者、国、県等と協議しながら計画的に保存修理や総合防災事業を実施し、文化財の保存継承に取り組んでいる。今後も日本遺産と歴史まちづくり事業を連携させ、構成文化財周辺環境整備もあわせて取り組んでいく。

今治市では市民やさまざまな分野の学識経験者で構成する「史跡能島城跡調査・整備検討委員会」を設置し検討を重ね、令和元年度に「史跡能島城跡保存活用計画」、令和2年度に「史跡能島城跡整備基本計画」を策定。現在、能島城跡の整備事業を順次進めているところである。近年、城内の桜や楠等の樹木をほぼ伐採したことで郭の状態がはっきり分か

る状態になったが、今後もより魅力的で分かりやすく能島城跡上陸体験ができるよう整備を進めていく。これらの調査や整備を進めることで村上海賊のストーリーを体験する人が増え、周遊観光などにより地域経済への貢献に繋がるよう取り組んでいく。

● 日本遺産の活用、構成文化財の保存活用のための財源確保

行政からの負担金を資金とする協議会の事業を持続的に運用するために、ふるさと納税及び寄付金による財源確保を進める。これにより、持続的な構成文化財の保存活用を進めることができる。

● 民間事業者等との連携

民間事業者が運用する様々な関連事業（ツアー販売、食品開発、村上海賊関連イベント等）では、構成文化財を活用したものが多くあり、協議会として協力、連携することで、構成文化財の適切な保存活用につながる。また、そうした関連事業と共に、民間事業者主導での構成文化財の保存に関する資金の支援等も進むものと考えられる。

また、民間事業者が主導となる国県補助事業や助成事業等との様々な形態での連携を行い、村上海賊の魅力体験を各分野で発信できるよう、調整していく。村上海賊の情報発信も民間事業者等との連携により、芸術文化、食、地場産業、交通等、芸予諸島の地域特性を活かした形で進めていく。

特に村上海賊×アクティビティ（マリンスポーツ、サイクリング、トレイル等）のコンテンツ販売、高所得者層向け（インバウンド含む）村上海賊コンテンツの販売とともに、ガンツウや観光列車「瑞風」「etSET0ra」「はなあかり」等の観光交通事業者との連携に取り組み、高付加価値化された村上海賊コンテンツを提供する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	DMO 及び観光協会等との連携		
概要	しまなみ地域の DMO である (一社) しまなみジャパンや観光協会等と村上海賊を活用した収益事業・インバウンド誘客を実施する組織整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各団体との協議の実施	協議会の総会などにおいて、各団体が集まり村上海賊を活用した収益化事業について協議する。	DMO、観光協会等、協議会
②	SNS 等の相互リンク	各団体が管理する WEB サイトや SNS 等で相互リンクを行い、情報発信の相乗効果を狙う。	DMO, 観光協会等、協議会
③	今治市ブランド戦略会議への参加	今治市ブランド戦略会議に参加し、市の他ブランドの向上とあわせて村上海賊のブランド力を向上させる。	地域事業者、今治市
④	村上海賊因島振興協議会との連携	「海賊焼き」、オリジナルメニュー等の食文化の開発、村上海賊城跡トレッキングルートの開発などを行う。	村上海賊因島振興協議会、協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産ロゴマーク及び村上海賊ロゴマークを使用して実施した事業数+協議会が後援した事業数		19
2023			23
2024			30
2025			20
2026			20
2027			20
2028			25
2029			25
2030			25
事業費	2025 年度 : 100 千円 2026 年度 : 100 千円 2027 年度 : 100 千円		
継続に向けた事業設計	各種団体と密に連絡を取り合い、地域一帯の連携を図る。実績を明確化するため、日本遺産ロゴマーク、村上海賊ロゴマークの使用について周知し、使用料を寄付金として収益化する。		
事業費	2028 年度 : 100 千円 2029 年度 : 100 千円 2030 年度 : 100 千円		
継続に向けた事業設計	中長期的に、強化した連携をもとに、協議会以外の団体の参画を増やし、協議会が各事業者の活動の hub となるよう、連携強化に努める。		

## (事業番号 1-B)

事業名	日本遺産魅力発信推進事業のための財源確保		
概要	村上海賊の魅力発信にかかる行政及び協議会の財源を確保する仕組みを作る。さまざまな手法により財源を確保し、円滑な事業実施体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	村上海賊魅力発信推進事業のためのふるさと納税の促進	村上海賊関連の返礼品が受けられるふるさと納税の返礼品の開発やそのPRを積極的に行う。	行政、協議会
②	村上海賊ロゴマークを活用した寄附金	協議会で作成した村上海賊のロゴマークを活用して開発した商品の寄附金をいただく仕組みのプロモーションを行う。	行政、協議会
③	クラウドファンディング等の活用	クラウドファンディング等の新たな財源確保手段を検討し、協議会の自走につなげる。	協議会
④	企業版ふるさと納税の活用	企業版ふるさと納税制度の活用を周知し、事業推進のための財源確保のほか、寄附を通じた新たなパートナーシップの構築、企業との連携強化を図る。	行政
⑤	日本遺産村上海賊PRキャラクター使用許諾料	企業、団体が、日本遺産村上海賊PRキャラクターを使用したグッズを販売する場合、一定のロイヤリティをいただく仕組みを構築している。	今治市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産のためのふるさと納税額+村上海賊寄附金額(千円)		31,309
2023			83,468
2024			14,301(ふるさと納税今治市集計中)
2025			30,000
2026			30,000
2027			30,000
2028			30,000
2029			30,000
2030			30,000
事業費	2025年度:100千円 2026年度:100千円 2027年度:100千円		
継続に向けた事業設計	各WEBサイト、SNSにおいて、ふるさと納税及び村上海賊寄附金について周知する。寄附する際の事業者へのメリットを明確化する。		
事業費	2028年度:100千円 2029年度:100千円 2030年度:100千円		

継続に向けた 事業設計	ふるさと納税や寄付金の増額のため、日本遺産情報発信やPRを行う。		
(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名	行政計画への位置づけ		
概要	上位計画に位置付けることにより、長期的な日本遺産の連携が出来、予算の獲得など安定的な事業継続が可能となる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	尾道市歴史的風致維持 向上計画第2期計画への 位置づけ	令和4年度からの10か年の第2期計画に位置付けており、日本遺産や文化財や歴史的風致を活かした観光振興を行う。	尾道市
②	尾道市総合計画後期基本 計画への位置づけ	計画期間を令和4年度から8年度とする尾道市総合計画後期基本計画に、日本遺産は地域資源、情報発信の点から重要と位置付けることにより、安定的、継続的な事業実施が可能となった。	尾道市
③	第2次今治市総合計画 後期基本計画への位置 づけ(2021-2025)	第2次今治市総合計画後期基本計画(2021-2025)において、日本遺産「村上海賊」を文化財として保存・活用し、また観光文化資源として活用するとしている。また、計画の更新にあわせ、内容も修正していく。	今治市
④	今治市観光振興計画への 位置づけ	今治市観光振興計画(2021-2030)のアクションプランにおいて、村上海賊の魅力的なコンテンツ開発、日本遺産イベントの実施、出前講座等を通じた普及啓発を行うと明記している。	今治市
⑤	第2期今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	第2期今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、外国人観光客を含めた滞在型観光を促進するため、日本遺産村上海賊等を活かした広域観光周遊ルートを形成する観光拠点の機能を充実させるとしている。その他、日本遺産の情報発信や人材育成、伝承、受入環境整備、新商品開発を進め、地域経済の活性化を図ることを明記している。	今治市
⑥	史跡能島城跡保存活用 計画	国史跡である能島城跡の本質的価値を明確にするとともに、今後の保存、活用、整備等に向けての基本方針を示した計画。各補助金等を活用しながら、史跡能島城跡を的確に保存・管理していく。	今治市
⑦	史跡能島城跡整備基本 計画	計画において、令和3年度から令和12年度にわたって、村上海賊の居城能島城跡の整備活用が	今治市

		計画されている。	
年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2022	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数 (総数)	8	
2023		8	
2024		8	
2025		8	
2026		8	
2027		8	
2028		8	
2029		8	
2030		8	
事業費	2025年度： 千円 2026年度： 千円 2027年度： 千円		
継続に向けた 事業設計	随時行政計画と日本遺産の関係を明確化し更新を行う。積極的に行政計画に位置づけることで、各部署が横断的に日本遺産の情報発信に取り組む。		
事業費	2028年度： 千円 2029年度： 千円 2030年度： 千円		
継続に向けた 事業設計	計画更新の際も引き続き日本遺産の現状にあわせ、計画の軸として設定する。		

(事業番号 2-B)

事業名	村上海賊マーケティング調査の実施		
概要	村上海賊の認知度、ターゲット層などを改めて分析し、時代にあった効果的な情報発信戦略、消費喚起手法を立案する。		
	取組名	取組内容	実施主体
⑧	統一アンケートの実施	協議会内で統一のアンケートフォームを作成し、各イベント等でデータを収集する。収集したデータを分析し、PDCA を回す。	行政、協議会
⑨	村上海賊に関心が高い層の分析	村上海賊に関心が高い層を分析し、当該層に最も効果的なアプローチ手法を実行する。各 SNS のエンゲージメントも注視する。	協議会 地域事業者 調査会社
⑩	村上海賊マーケティング調査の実施	イベント等でマーケティング調査を実施し、データを元に村上海賊コンテンツを充実させ、魅力を増進させる。	協議会 地域事業者 調査会社
⑥	村上海賊関連消費動向調査	村上海賊に関連した商品の売り上げや消費動向を調査・分析する。調査結果をもとにさらなる販売促進や新たなアプローチ方法の模索を行う。	協議会 地域事業者 調査会社
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	村上海賊認知度アンケートの実施回数		未集計
2023			41
2024			39
2025			30
2026			30
2027			30
2028			30
2029		30	
2030		30	
事業費	2025 年度：100 千円    2026 年度：100 千円    2027 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	協議会で統一したアンケートフォームを作成。アンケートを各種イベント等で年最低 5 回（+両市出前講座等実施回数）実施し、各種イベント等で実施し、データの分析を行う。SNS 等のエンゲージメントも分析し、マーケティングに役立てる。		
事業費	2028 年度：100 千円    2029 年度：100 千円    2030 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計			

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産村上海賊ガイド人材養成事業		
概要	<p>日本遺産のガイドや調査研究等を積極的に行う人材育成を図る。講座では歴史だけではなく、SNSを使った情報発信の方法なども取り上げ、積極的な「日本遺産村上海賊」の情報発信につなげる。</p> <p>観光ガイド付きの個人ツアー等においてHP等からの申し込みする際に、文化遺産パートナー認定者などガイドのグレードを可視化し、申込者の利便性の向上を図るとともに、ガイドの意識向上によるレベルアップを図る。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化遺産パートナー養成事業	日本遺産のガイドや調査研究等を積極的に行う文化遺産パートナーを養成する講習会やワークショップを開催し、より効果的な日本遺産の活用と人材育成を図る。	観光協会、協議会
②	小中学校・高校、大学等出前講座	村上海賊が遺した「海の文化」を次世代へ継承するため、尾道市内小中高校、大学、今治市内小学校にて出前講座を行い、村上海賊の普及啓発活動を行う。将来的に市外・圏外へ出ても、地元の海賊の歴史をそこで広めてもらう。	小中学校、高校、大学、協議会
③	村上海賊ツアーガイドの養成	村上海賊のストーリーや構成文化財を熟知し、その知識をもとに村上海賊クルーズや村上海賊城跡ウォーキングでガイドを行うツアーガイド（通訳案内士含む）を、実地ツアーをもとに養成する。	観光協会等、協議会
④	村上海賊ミュージアムパートナー養成	村上海賊ミュージアムの運営等を手助けするミュージアムパートナーに村上海賊の歴史をさらに学んでもらうよう育成プログラムを強化する。	村上海賊ミュージアム
⑤	今治・しまなみ地域通訳案内士の育成	外国人旅行者に高品質なサービスを提供するため、今治市・しまなみ海道の地理、歴史、文化、観光、特産品などの知識を習得する研修を行い、現地情報に精通した質の高い「今治・しまなみ地域通訳案内士」を育成する。	今治市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	地域民間プレイヤー数		330
2023	(文化遺産パートナー・日本遺産パートナー登録者数)		331
2024			333

2025		330
2026		330
2027		330
2028		350
2029		350
2030		350
事業費	2025年度：300千円 2026年度：300千円 2027年度：300千円	
継続に向けた事業設計	各講座をプログラム化し、毎年改善を加えながら継続的に実施する。	
事業費	2028年度：300千円 2029年度：300千円 2030年度：300千円	
継続に向けた事業設計		

(事業番号 3-B)

事業名		日本遺産活用事業者支援	
概要		村上海賊のブランドを活用した事業者へのビジネス創出支援を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
⑪	村上海賊を活用した地域事業者を集めての意見交換会の実施	村上海賊を活用した事業者に集ってもらい、日本遺産活用の現状や補助制度の紹介、意見交換などを行う。	事業者、協議会
⑫	村上海賊を活用した商品開発への援助	村上海賊を活用した商品等を開発する際に、村上海賊の歴史的事実や概要説明などを行い開発の手助けを行う。	事業者、協議会
⑬	村上海賊問合せ相談窓口開設	一般市民や事業者が問い合わせをしやすい環境をつくり、村上海賊を活用した地域活性化の一助とする。	村上海賊ミュージアム、協議会
⑦	村上海賊因島振興協議会との連携	因島を中心に村上海賊をテーマとした旅行商品造成、商品開発、案内板整備を行っており、情報発信や内容監修等で支援している。	事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	村上海賊関連ビジネス創出数（年間）		8
2023			16
2024			15
2025			10
2026			10
2027			10
152028			15
2029			15
2030			15
事業費	2025年度：100千円　2026年度：100千円　2027年度：100千円		
継続に向けた事業設計	最新の経済動向や文化庁等各省庁補助制度を把握し、村上海賊を活用したビジネスができるよう最適な環境を整備する。		
事業費	2028年度：100千円　2029年度：100千円　2030年度：100千円		
継続に向けた事業設計			

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	歴史的風致維持向上事業		
概要	歴史的風致向上計画に基づき、道路美装化事業、まちなみ形成事業補助等を実施し、日本遺産のストーリーを構成している魅力的な街並みと景観の形成と維持を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存事業	構成文化財の所有者による文化財保存修理や防災施設整備事業を実施し、その成果見学会や、展覧会を実施し、記録集の作成や配布を行うことにより、市民への普及を図るとともに、コアな歴史ファンの来訪の増加につなげる。	文化財所有者
②	道路美装化事業	構成文化財 向上寺に向かう道路美装化事業を実施し、回遊性を高めるとともに、文化財保存を進める。	尾道市
③	文化財調査研究及び市史編さん事業	村上海賊を含めた地域の歴史文化を調査研究し、その成果を情報発信や普及啓発事業につなげていく。	尾道市
④	日本遺産魅力発信事業	日本遺産の情報発信のため、案内板や説明板の整備を進める。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	瀬戸田歴史的風致地区の道路の美装化した距離 (m)		設計
2023			201.6m
2024			設計
2025			最終目標 675m
2026			最終目標 675m
2027			最終目標 675m
2028			最終目標 675m
2029			最終目標 675m
2030			最終目標 675m
事業費	2025年度：未定 千円 2026年度： 千円 2027年度： 千円		
継続に向けた事業設計	令和4年度から令和13年度までの第2期計画に、日本遺産構成文化財の保存活用や、環境整備、普及啓発事業を位置づけ、計画に沿って継続的に事業を実施する。		
事業費	2028年度： 千円 2029年度： 千円 2030年度： 千円		
継続に向けた事業設計	国土交通省等の補助金を活用し、計画に沿って実施する。		

## (事業番号 4-B)

事業名	宿泊施設連携事業		
概要	2025 年の大阪万博、瀬戸内国際芸術祭、ひろしま国際建築祭を契機に海から富裕層を呼び込むため、島しょ部に上質な宿泊施設を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	シトラスパーク活用事業	生口島にある旧シトラスパークを活用し、レモン栽培、公園の整備、グランピング設営がされており、運営事業者を支援していく。	民間事業者、尾道市
②	上質な宿泊施設の開発促進事業	尾道市の上質な宿泊施設誘致の取り組みが評価され、観光庁の「上質な宿泊施設の開発促進事業」に係る自治体に選定されている。引き続き積極的な誘致に取り組んで行く。	民間事業者、尾道市
③	地域内宿泊施設における村上海賊 PR	グランピングやゲストハウスなど、多様な形態の宿泊事業者に向け村上海賊の PR を行い、旅行需要の喚起を行う。	宿泊事業者、協議会
④	宿泊施設への日本遺産情報設置等の連携	宿泊施設に村上海賊パンフレットやポスター等、情報を掲示し、発信を行う。	宿泊事業者、協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	宿泊客数（今治市、尾道市）		924,767
2023			1,026,614
2024			集計中
2025			1,000,000
2026			1,000,000
2027			1,000,000
2028			1,050,000
2029			1,050,000
2030			1,050,000
事業費	2025 年度：100 千円    2026 年度：100 千円    2027 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計	行政側が庁内関係各課、国、県、DMO 等と連絡調整を行うとともに、各機関と連携し速やかに行政上の課題が解決できるようサポートする。		
事業費	2028 年度：100 千円    2029 年度：100 千円    2030 年度：100 千円		
継続に向けた事業設計			

## (事業番号 4-C)

事業名	村上海賊ゆかりの風景スポット整備		
概要	多島美で知られる風光明媚なしまなみ地域のなかで、SNS 拡散されるような村上海賊ゆかりの風景スポットを発掘し、観光誘客のために整備活用する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	史跡能島城跡保存整備事業	来訪者が安全に満足して歴史を体感できるように能島村上家が本拠とした能島城跡の整備を行う。	今治市
②	村上海賊歴史体験モデルルート作成	サイクリングと融合させたモデルコースを考案し販売する。また、戦略立案でターゲットとした海外プロモーションの国・地域に対するモデルルートも作成する。	協議会
③	村上海賊フォトスポット整備	しまなみの風光明媚な景観を活かしたフォトスポットを設定する。能島城跡を眺められるビューポイントを設定し、多島美の優れた景観とともに村上海賊の歴史を学び実感できるよう、周辺施設と連携する。	今治市
④	案内板整備	構成文化財等に案内板を設置し、村上海賊の歴史や文化を周知する。	尾道市 今治市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数（人）		20,022
2023			20,692
2024			21,400(予測値)
2025			22,000
2026			22,700
2027			23,400
2028			24,100
2029			24,800
2030			25,500
事業費	2025 年度：300 千円    2026 年度：300 千円    2027 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計	村上海賊ゆかりのスポットを活用して事業を行う民間事業者等と連携し、風光明媚な景観をいかしたスポットを整備する。		
事業費	2028 年度：300 千円    2029 年度：300 千円    2030 年度：300 千円		
継続に向けた事業設計			

## (事業番号 4-D)

事業名	村上海賊調査研究事業		
概要	村上海賊の史跡や文書等広く研究し、ストーリーの広がりとはサブストーリーの抽出を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	村上海賊調査研究	毎年テーマごとに調査研究をし、関連文化財やエリアを拡大し、サブストーリーとして活用する。	協議会
②	日本遺産調査研究成果報告巡回展	研究成果の巡回展を、村上海賊ミュージアム、おのみち歴史博物館、因島水軍城で実施する。	協議会
③	村上海賊調査研究成果パンフレット作成	研究成果をパンフレットとしてまとめ、人材育成事業の資料や、イベント会場で村上海賊の新たな魅力を発信する媒体として活用する。	協議会
④	日本各地で活躍した海賊等の研究などサブストーリーの観光事業化	研究を他地域の海賊勢力まで広げ、研究成果をもとに紹介パンフレットの作成、WEB サイトでの情報発信や、ツアーの造成を行う。	協議会、民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	巡回展来場者数（人）		19,746
2023			19,673
2024			17,120
2025			19,000
2026			19,000
2027			19,000
2028			20,000
2029			20,000
2030			20,000
事業費	2025 年度：500 千円    2026 年度：500 千円    2027 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計	村上海賊の調査研究は協議会構成員である今治市・尾道市が継続的に実施し、展示や印刷等によって地域住民や観光客に広く公開する。		
事業費	2028 年度：500 千円    2029 年度：500 千円    2030 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計			

## (事業番号 4-E)

事業名	日本遺産ビジターセンター機能拡充事業		
概要	設置された日本遺産ビジターセンターの機能拡充を行い、より深い村上海賊の理解が得られるよう環境整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
③	体験コンテンツの充実	日本遺産ビジターセンターにおいて、VRなどの体験コンテンツを充実させ、来訪者がリアルな体験をとおして村上海賊の理解が深められるようにする。	協議会
④	隣接施設との連携	日本遺産ビジターセンターと隣接する物産コーナー等の他施設と連携し、相互に誘客を図り村上海賊の理解を深めるとともに地域経済にも貢献する。	地域事業者、協議会
③	日本遺産ビジターセンターにおける解説展示の多言語化	日本遺産ビジターセンターにおいて、解説展示を多言語化することにより、海外からの観光客が村上海賊に親しむ機会を提供する。	協議会
④	調査研究成果を紹介する巡回展の開催	村上海賊の様々な文化財や歴史についての調査研究成果を紹介、情報発信する巡回展を毎年開催し、あわせて周遊コンテンツとして活用する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	因島水軍城、村上海賊ミュージアム来館者数(人)		94,801
2023			98,036
2024			78,971
2025			100,000
2026			100,000
2027			100,000
2028			104,000
2029			104,000
2030			104,000
事業費	2025年度：300千円　2026年度：300千円　2027年度：300千円		
継続に向けた事業設計	ビジターセンターの展示内容の見直しを定期的に行い、また、来館者数の正確な把握により日本遺産関係のデータとして収集する。		
事業費	2028年度：300千円　2029年度：300千円　2030年度：300千円		
継続に向けた事業設計			

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	「村上海賊」をテーマとした多様なツアーの実施と磨き上げ事業
概要	「村上海賊」のストーリーをさまざまな形で体感できるツアーの実施と、開催数だけではなく、質のレベルアップを図る。DMO等と連携し村上海賊の体験ツアーを積極的に販売する。

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産村上海賊クルーズツアー	村上海賊の海城など多くの島を有する地域の特性をいかした日本遺産「村上海賊」構成文化財をめぐるクルーズツアーの実施と、磨き上げを実施する。	民間事業者 協議会
②	修学旅行誘致事業	教育旅行誘致活動等により、都市部からの修学旅行が増加しており、さらに受け入れを拡大するため、村上海賊の魅力などを紹介した教育旅行ESDツアーガイドブックを活用し、修学旅行ガイドブックを作成し、旅行会社等に配布する。	旅行会社、今 治市、協議会
③	しまなみアートミュージアムオンラインツアー	村上海賊としまなみ地域のアートミュージアムを巡る謎解きオンラインツアーを実施し、オンライン上で村上海賊やしまなみのアートを体験できるようにする。謎解きをクリアした参加者には施設などで景品を渡し、リアルの誘客にもつなげる。しまなみアートミュージアム7館を巡るデジタルスタンプラリーを実施し、周遊性を高める。	民間事業者、 協議会
④	地域地場産業とコラボした体験コンテンツの造成	地域の地場産業と村上海賊のつながりに注目した体験コンテンツを造成し、ツアーに組み込む。造成したツアーは、(一社)しまなみ日本の体験予約ページ等に掲載し、積極的に販売促進を行う。	民間事業者、 協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数	20,022
2023		20,692
2024		21,400(予測値)
2025		22,000
2026		22,700
2027		23,400
2028		24,100
2029		24,800
2030		25,500
事業費	2025年度：2,000千円 2026年度：2,000千円 2027年度：2,000千円	

継続に向けた 事業設計	村上海賊をテーマとしたツアーは観光協会等の民間事業者が実施し、内容の構成やツアーガイド育成については協議会が助言する等、連携をしながら磨き上げ、集客率、収益率を高めていく。
事業費	2028年度：2,000千円 2029年度：2,000千円 2030年度：2,000千円
継続に向けた 事業設計	

## (事業番号5-B)

事業名	食文化魅力創出事業		
概要	しまなみエリアの村上海賊に関連する食材をテーマとして歴史的価値を発信するとともに、商品として活用していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	八朔加持力まつり	八朔発祥の寺である因島の浄土寺において、八朔・八朔産地の繁栄を願う法要を行うことにより、八朔の歴史を紹介するとともに、産地をPRする。	八朔まつり 実行委員会 JAひろしま 果実連
②	村上海賊ブランドとご当地グルメの融合	村上海賊と、八朔などの柑橘グルメや今治焼き鳥などのご当地グルメを融合させ、海賊をテーマとした新メニューの開発、磨き上げ、参加店舗の増加を図っていく。情報発信もあわせて強化する。	(一社)しまなみジャパン、 因島観光協会、 地域グルメ団体、 協議会
③	SAVOR JAPAN	SAVOR JAPANに認定された、せとうちの食の魅力を、新たな切り口から開発したメニューや加工品、イベント、様々なワークショップにより国内外からの来訪者に紹介する。	LOG、尾道市
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	海賊むすび提供店舗数		14
2023			15
2024			15
2025			15
2026			15
2027			15
2028			15
2029			15
2030			15
事業費			2025年度：100千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円
継続に向けた事業設計	観光事業者だけでなく、JA等とも連携を強化していく。		
事業費	2028年度：100千円 2029年度：100千円 2030年度：100千円		
継続に向けた事業設計			

## (事業番号5-C)

事業名	サイクリング、マリンアクティビティと組み合わせた旅行商品の開発		
概要	世界的に有名なサイクリングコース「瀬戸内しまなみ海道」を活用した観光商品や、釣り・キャンプなどマリンアクティビティと組み合わせた体験コンテンツを開発する		
	取組名	取組内容	実施主体
①	サイクリング観光客への村上海賊誘客強化	しまなみ地域のレンタサイクルターミナルにおいて、サイクリング観光客へ村上海賊がかつて通行許可証として渡した「過所旗」等を模したグッズなどを配布しやサイクリング+αの村上海賊の観光誘客を図る。	(一社)しまなみジャパン、行政、協議会
②	マリンアクティビティ等との組み合わせ	釣りが盛んな当地域の特性をいかし、瀬戸内の海の幸で村上海賊ゆかりの料理を作る体験プログラムやキャンプイベントなどにおける村上海賊の武器ほうろく玉投げゲームなどを実施する。	民間事業者、(一社)しまなみジャパン、協議会
③	村上海賊の海城体験ツアー	現在は無人島となっている村上海賊の海城をサイクルシップなどで巡るクルーズツアーを実施。普段は行けない場所へいけるツアーとしてプレミアム感を出す。	民間事業者、(一社)しまなみジャパン、協議会
④	村上海賊デジタルスタンプラリー	村上海賊ビジターセンターや構成文化財、観光スポットをめぐるデジタルスタンプラリーを実施する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	レンタサイクル貸出数(台)		121,810
2023			127,458
2024			132,979(12月末時点)
2025			140,000
2026			142,000
2027			144,000
2028			146,000
2029			148,000
2030			150,000
事業費	2025年度:50,000千円 2026年度:50,000千円 2027年度:50,000千円		
継続に向けた事業設計	行政観光部局、DMOとの密な連携により、それぞれが蓄積した観光ノウハウを最大限活用する。しまなみ地域のキラコンテンツであるサイクリングを最大限活用する。		
事業費	2028年度:50,000千円 2029年度:50,000千円 2030年度:50,000千円		

継続に向けた 事業設計	
----------------	--

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号6-A)			
事業名	小中学生・高校生向け普及活動		
概要	地域の小中学生などを対象とした出前授業や体験プログラムの提供、高校生と連携したPR活動などを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	村上海賊キャラクターの活用	世界的に有名なアニメーションがデザインした村上海賊のキャラクターを各種媒体で使用し、効果的なPRを図る。	デザイナー、市、協議会、
②	小学校での出前講座の実施	小学生を対象に各学校において村上海賊の出前講座を実施し、村上海賊への愛着造成及び児童への歴史への探究心の掘り起こしを行う。	小学校、協議会
③	児童生徒・高校生向けのパンフレットの増刷	村上海賊が遺した「海の文化」を次世代へ継承するため作成した、児童生徒・高校生向けのパンフレットの内容を更新しながら増刷する。	協議会
④	ショッピングモール等と連携した事業	地元や各地のショッピングモール等と連携し村上海賊のPRイベントや、おでかけ講座（夏休みの自由研究などの手助けなど）を実施する。	ショッピングモール、協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	出前講座における小学生等の村上海賊の認知度 (%)		59
2023			67
2024			85
2025			70
2026			70
2027			70
2028			75
2029			75
2030			75
事業費	2025年度：100千円 2026年度：100千円 2027年度：100千円		
継続に向けた事業設計	小学生向けの出前講座などを毎年行えるよう体系化し、継続して小中学生へ普及啓発を図る。都度アンケートを実施し、認知度などを調査する。		
事業費	2028年度：100千円 2029年度：100千円 2030年度：100千円		
継続に向けた事業設計			

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	総合的情報発信事業		
概要	<p>総合パンフレット、HP、SNS等の内容を更新、増刷、維持管理しながら、ターゲットごとに異なる媒体（高齢者は紙媒体、若年層はSNS等）によって、村上海賊の魅力を発信する。</p> <p>ノベルティの配布や物販、ワークショップを行うことにより村上海賊の魅力にモノ、コト、シヨク（食）を付加し、来訪者の増加を促進する。更に、訪問者がSNS等で尾道の魅力を発信し、さらなる情報発信につながる仕掛けづくりを行う。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	パンフレット増刷、配布	村上海賊パンフレット等を必要に応じて増刷し、ビジターセンターや関連イベント等での配布を行う。	協議会
②	HP、SNS等維持管理	村上海賊HP、SNS等の維持管理を行い、日々情報を更新して、日本遺産の魅力を情報発信する。	協議会
③	関連イベント出展事業	日本遺産フェスティバルやツーリズムエキスポ等イベントへ出展を行い、村上海賊の情報を発信する。	協議会・民間事業者
④	ビジターセンター情報発信事業	村上海賊ビジターセンターでの日本遺産PR映像放映やパンフレット等配布により、情報を発信する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	HPユーザー数、		7,257
2022	SNS (Facebook, X (旧 Twitter), Instagram)		8,929
2023	フォロワー数		7,240 (12月末)
2024			8,000
2025			8,100
2026			8,200
2027			8,300
2028			8,400
2029			8,500
事業費	2024年度：500千円 2025年度：500千円 2026年度：500千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産村上海賊の情報を継続的に発信する方法として、HP、SNS、パンフレット等で継続的に実施する。		
事業費	2027年度：500千円 2028年度：500千円 2029年度：500千円		
継続に向けた事業設計	Webと紙媒体の維持管理費を継続的に確保し、着実な事業推進を行う。		